実施中

●地域の居場所づくり（高齢者、親子（育児）、多世代、障がい児等）

⇒社会福祉法人と地域との連携による居場所づくり

施設等の提供可能な場所や人材等を活用し、身近な地域における共生型の居場所づくりを広める。

※機能としては「多様な住民ニーズ・課題の解決」・「連携による包括的な支援」・「コミュニティによる支えあい」等が考えられる。

居場所づくりがきっとうまくいくハンドブック
東京ボランティア・市民活動センター

地域の顔の見える関係づくりと誰もが役割のある場づくり
岡輝みんな食堂プロジェクト〈チラシ〉

▼現場からの発信

じいちゃん・ばあちゃん・子どもたち みんなの居場所 ～「じ・ば・子のおうち」～

近年、少子高齢化や核家族化が進み、地域とのつながりが希薄化してきており、異世代で交流する機会も少なくなってきています。

今月号では、津山市城東地区にある「空き家」を利用した高齢者と子どもたちの居場所「じ・ば・子のおうち」を運営している つやまNPO支援センター事務局長の村上さん、地域運営委員の中川さん、民生委員の多木さん、津山市地域包括支援センター（以下、津山市包括）の渡邉さん、美作大学の学生さんにお話を伺いました。

「じ・ば・子のおうち」ができるまで

東北の大震災以来、昔ながらのつながりや優しさ、思いやりが新しい価値観として見直されてきました。表舞台に出る機会がない高齢者はそういう昔ながらの大切な物（文化）を自然に持っている。それを再発信したくて「じいちゃん、ばあちゃん、子ども」という一つの寄合として平成22年に「じいちゃん・ばあちゃん・子どもたち みんなの文化祭」（通称：じ・ば・子の文化祭）を始めました。

「父ちゃん、母ちゃん」はあえて入れず、高齢者と子どもの間に流れるゆっくりとした時間に意味を見いだし、それを地域の新しい価値として伝えていきたいと思いました。

それから、平成24年までは年1回のイベントとして開催してきましたが、年1回では成果が上がらないとの反省から、常設の拠点を作って開催していくことになりました。幸いにも「空き家」を近所のお寺（千光寺）からお借りすることができ、地域の方々、津山市、美作大学、津山市社会福祉協議会、津山市包括、つやまNPO支援センターの協力のもと1年間かけて修理・清掃を行い平成26年4月に「じ・ば・子のおうち」がオープンしました。

オープンした時の「じ・ば・子のおうち」

活動内容について

毎月2回 午前10時から12時に「子どもの居場所事業」を行っています。節分や七草粥、クリスマスといった季節の行事のほか、夏にはお泊り会、秋には運動会や文化祭も開催しています。また、毎月1回「高齢者のヨガ教室」「高齢者の健康講座」も行っています。その他、活動内容や次回の予定を紹介した「じ・ば・子のおうち通信」を毎月町内全戸に配布しています。

運動会の様子

大学生たちと地域の人たちの交流拠点施設
じ・ば・子のおうち〈岡山県社協機関紙〉